高齢者事業団

この道ひと筋に

機械設計者として情熱を燃やす小松さん

現在、市内の65歳以上の人口は１万5,000人。市全体で占める割合は７％。さらに20年後には約12％の３万人になると予想されます。

いやおうなしに高齢化社会の進む中で、市は昨年の10月、県下初の「高齢者事業団」をスタートさせました。

これは、自分の経験と能力に応じた労働をすることによって、「健康」と「生きがい」を増進させ、さらに一定の収入を得るというものです。

今回は、この事業団の会員で「自分の経験を社会のために生かしたい」という鈴川３丁目の小松達郎さん（74歳）を紹介しながら、お年寄の生きがいについて考えてみました。

〔今日も機械設計に励む小松さん〕

70歳から勉強を

小松さんは、明治40年８月１日生まれ。長女の慶子さん（44歳）とお孫さんの明子さん（19歳）、有子さん（14歳）の４人で暮らしています。

小松さんは、昭和10年に川崎に本社がある大手電気会社へ勤務。昭和20年に富士工場へ転勤し、昭和38年の定年退職まで、機械設計者として技術畑ひと筋に歩んできました。

定年退職後は、大仁にある関連企業へ、機械設計者として昭和46年まで勤めました。

その間、昭和45年には人生の最大の不幸ともいうべき、奥さんと長男、それに長女のご主人の、３人を病気で亡くされてしまいました。

仕事も手につかない毎日でしたが、自分のことはもとより、長女の家族のことも考えなければならず、よしっ、これからは本気になって仕事を始めよう――と…。

この時、小松さんはすでに67歳。

昭和47年に自宅へ設計事務所を構え、自分で設計の仕事を始めました。

最初のうちは、なかなか仕事もありませんでしたが、知人などの紹介により仕事も増え、忙しい毎日となりました。しかし、70歳を過ぎると仕事も減る一方。

そこで、小松さんは、70歳を境に設計の勉強をもう一度やり直そうと思い、基礎から学び始めました。

この時、「小人（しょうじん）閑居（かんきょ）して不善（ふぜん）をなす」という諺を常に自分にいいきかせました。

思いがけず仕事が…

それから３年、73歳という年齢から「もう自分を使ってくれる所はないだろう」と思いながらも、設計の勉強を毎日続ける小松さん。

そして、去年の９月に「高齢者事

市内最高齢者の加藤さん

70歳以上は9,445人

各地区で敬老会が開かれます

今年も敬老会が、９月９日の神戸、吉永第２地区を皮切りに15日まで、各地区で開かれます。

対象者は、明治44年９月15日以前に生まれた70歳以上の人で、市内には男3,891人、女5,554人、合計9,445人います。

市からは、80歳以上の人に祝金、88歳の人に記念品と祝金、90歳代の人にシーツ、金婚式を迎えられるご夫妻に、きゅうすが贈られます。また、289人の寝たきり老人に、市長の慰問文を添えた慰問品が贈られます。

市内の最高齢者は、大渕4632－１富士楽寿園内の加藤源次郎さん（99歳）です。